

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	物理学	担当講師	濱 道生
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
科目設定のねらい 「科学的思考の基盤」として本科目を設定した。 本科目では人間の体と技の原理及び科学技術の原理を理解することで、看護技術を物理学的に考察し科学的根拠のある看護技術を学ぶ基礎とする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
8	1. 看護における力学的な原理・原則が理解できる	1) 看護に必要な力学の知識	(1)看護とベクトル ①ベクトルの表し方 ②力の加減 ③看護に役立つベクトルの加法 ④看護に役立つベクトルの減法 (2) 看護とトルク ①トルクの大きさ ②看護に用いる器具とトルク ③看護師の身体とトルク ④体位変換に役立つトルク (3) 安定・不安定 ①重心 ②支持基底面 (4) 作用・反作用 ①看護に役立つ作用反作用の法則 (5)看護ボディメカニクス ①ボディメカニクス 腰痛を防ぐ安全な姿勢・動作 脊柱起立筋とボディメカニクス 慣性モーメントとボディメカニクス	講義 演習	
6	2. 看護における圧力の原理が理解できる	1) 看護に必要な圧力の知識	(1) 医療で使われる圧力の単位、基本の法則 ボイルの法則・ヘンリーの法則・ベルヌーイの定理 (2) 空気の圧力 ①トリチェリーの実験 ②水と水銀の関係 (3) 血圧 ①血圧の測定 ②点滴と血圧 (4) 酸素ポンペ (5) 圧力と水の沸点の関係		
1	試験				
テキスト	平田雅子著 完全版「ベクトル・サイト」を科学する－看護にいかす物理学－改訂第3版 学研メディカル秀潤社				
参考文献	平田雅子著 新体系看護学 基礎科目 物理学 メヂカルフレンド社 平田雅子著 なぜ？を知ったらこわくない「ベクトル・サイト」のサイエンスQ&A 日本看護協会出版会				

	系統看護学講座 基礎分野 物理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 菱沼典子著 看護形態機能学－生活行動からみるからだ」日本看護協会出版会 任 和子編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 竹内登美子編著 周手術期看護 2 医歯薬出版株式会社
評価 方法	筆記試験

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	論理学	担当講師	田邊 正俊
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
科目設定のねらい 「科学的思考の基盤」として本科目を設定した。 本科目では人間の多様な生き方への関心をもち、身近なところから問題意識をもてるよう自己の思考を深めるために論理的思考ができ、かつそれを文章表現できることをねらう。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	「論理(学)」について理解する。	日常生活と「論理」。	「論理(学)」を学ぶ意味について確認する。	講義 小レポート 課題/小テストと添削	
4	「読む」ことについて理解を深める。	文章の読み方。	「読むこと」について、テキストの説明や例文を交えながら理解を深める。		
4	原稿用紙の使い方を身につける。	原稿用紙の使い方。	原稿用紙の使い方を確認したうえで、小レポート課題を通じて実践する。		
4	構成を立てて筋道立った文章を書くことができる。	構成が明確で筋道立った文章。	事前に主題を明確にして構成を立てたうえで、その構成に沿って筋道立った文章を書くことについて学び、実践する。		
4	読み手にとってわかりやすく、書き手の考えを正確に伝える文章を書くことができる。	読み手にとってわかりやすく、書き手の考えを正確に伝える文章。	語順・読点・接続語・指示語等が「文章のわかりやすさ」に大きな影響を及ぼすことについて確認する。また、「文のねじれ」や「隠れた前提」について理解することを通じて、「書き手の考えを正確に伝える文章」を書くために必要なことについての理解を深める。		
4	要約に取り組む。	文章の要約。	「要約」の作成について学び、実践することで、文章力を高めることを目指す。		
4	レポートや論文に取り組む際の「形式的な注意事項」を理解する。	文章を書く際の形式的な注意事項、参照・引用のルール。	文章を書く際の形式的な注意事項、引用と参照指示の提示方法、文献やインターネットの活用方法等について、具体例を交えながら確認する。		
2	学んだことが身についているか確認する。	筆記試験 (終講試験)。	(試験に際しては、基本的な構成と論述問題の内容について事前に予告する。)		
【授業全体について】 本科目は、3時限と4時限に連続して開講されます(終講試験を実施する最終日を除きます)。基本的に、3時限には講義を実施します。4時限には提示された課題文を読んで、「小レポート」を書いていただきます(「小レポート」に代わり、学んだことが身についているかを確認する「小テスト」を行う場合もあります)。小レポート/小テストは、次回の授業までに講師がコメントを付した/採点したうえで返却します。 「文章力」(読み手に自分の考えが正確に伝わる、わかりやすい文章を書くことが重要です)と「読解力」(書き手の主張と、その根拠を理解できるようになることが重要です)をどちらも高めることを心がけてください。					
テキスト	松葉祥一著 ナースのための実践論文講座 人文書院				
参考文献	戸田山和久、『新版 論文の教室』(NHK出版)。石黒圭、『「読む」技術——速読・精読・味読の力をつける』(光文社新書)、『「接続詞」の技術』(実務教育出版)。福澤一吉、『看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル』(医学書院)(なお、上記以外の参考文献については、授業中に適宜紹介します)。				
評価方法	平常点(主に、小レポート課題と小テストにもとづいて評価)(50%) 終講試験(50%)				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	情報科学 I	担当講師	星 雅丈
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	1 5 時間
科目設定のねらい 人間は常に情報をやり取りして生活しており、それは医療現場における看護においても同様である。 まず、情報とは何かを理解し、情報の活用方法と情報を取り扱う責任について学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 情報の特徴と情報社会について理解できる	1) 情報と情報社会	(1) 情報の定義と特徴 ①情報とは ②情報の特性 ③情報の認知と意思決定 ④情報の伝達とコミュニケーション (2)社会と情報 ①情報社会の成立と発展 ② 情報社会で求められること	講義	
	2. 情報倫理やセキュリティについて理解できる	2) コンピュータリテラシーとセキュリティ	(1)コンピュータに関する基礎知識 (2)インターネットに関する基礎知識と注意点	講義	
10	3. 情報収集方法とワープロソフトの使い方が理解できる	3) 既存の情報収集方法 4) ワープロソフトの使い方	(1)文献検索 (2)インターネット上で役立つ情報へアクセス (1)データ検索と利用 (2)ページ設定 (3)文章入力 (4)挿入 (5)参考資料 (6)校閲	PC 演習 講義	
	4. 表計算ソフトを利用し統計処理・情報分析ができる	5) エクセルの使い方	(1)エクセルの基本操作 (2)データ入力形式と表示方法 (3)データの種類と単純集計 (4)正規分布の特徴 (5)統計的推定と 95%信頼区間 (6)検定と分析 (7)一般的な検定の流れと 2 種類過誤 (8)標本のデータ間の各種検定 (9)エクセルによる各種平均の検定 (10)量的データと量的データの関係を調べる (11)エクセルによる散布図と回帰分析 (12)多変量解析	講義 PC 演習	
1	試験				

テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院
参考文献	田久浩志・岩本晋著 実力養成 Word&Excel 改訂版—らくらくレポート作成・データ集計 羊土社
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	心理学 I	担当講師	董 潔
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>看護の対象である人間を理解するための1つの学問領域として本科目を設置する。本科目では人間の心理・感情・基本的欲求など行動の基礎にある原理を学び、人間を理解する手がかりを得るための知識を習得する。また看護に欠かすことができない自己理解・他者理解のための基礎理論を学ぶ。これらの知識は看護学へと発展していくための基礎となるものである。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 心を理解しようとする「心理学」の持つ意味を理解する	1) 看護における心理学	(1) 心理学とは ①人間理解と心理学 ②科学としての心理学 ③対人援助職における心理学の意義 ④心理学のはじまりと現代の心理学	講義	
4	2. 感覚・知覚・記憶・動機・認知などよばれる高次の心的活動について理解する	2) 認知からの人間理解	(2) 認知 ①感覚・知覚 ②記憶の心理 ③感情・動機 ④思考・言語・知能	講義	
4	3. 人間が持つ欲求が生み出す心理的力について理解する	3) 行動からの人間理解 (欲求と動機づけ・葛藤と欲求不満・学習と行動)	(3) 動機づけとは ①生理的・社会的動機づけ ②外発的・内発的動機づけ ③マズローの欲求階層説 (4)動機づけの理論 ①報酬と動機づけ ②自己効力感 (5)葛藤と欲求不満 ①葛藤 ②フラストレーション ③適応機制 (6)学習と行動 ①古典的条件づけ ②オペラント条件づけ ③社会的学習	講義	
2	5. パーソナリティについて理解する	4) パーソナリティからの人間理解	(7) パーソナリティとは ①性格の理解 ③類型論・特性論・構造論 ④性格の測定	講義	
2	5. 心と行動のメカニズムの発達過程を理解する	5) 発達からの人間理解	(8) 発達とはー発達理論と心理学 ①発達理論ーエリクソン他 ②ライフサイクル各期の発達心理	講義	
1	試験				
テキスト	長田久雄編集 看護学生のための心理学 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院				
評価方法	筆記試験				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	社会学	担当講師	石山 雄貴
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
科目設定のねらい 人間の生活・社会・地域文化・家族を理解し、変化の著しい現代社会の動向に関心を持ち、社会と人間生活の密接な関係を理解する。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 現代社会における家族と家族問題について社会的に説明できる	1) 社会学とは家族とその機能	(1) 社会学の基本的な考え方 (2) 集団、組織、ネットワーク (3) 家族の機能と構造 (4) 社会変動とグローバリゼーション ジェンダーと性別役割分業 ケアの担い手の変化	講義	
2	2. 働き方と働き方と健康・病気との関係について説明できる	1) 労働と健康の関連 ワーク・ライフ・バランスの実現	(1) 働き方と働き方への健康への影響 (2) ワーク・ライフ・バランス		
4	3. 社会格差と健康の関連と、健康に対する地域社会と保健医療制度の役割について説明できる	1) 社会生活における健康と病	(1) 健康・病気の見方 (2) 社会格差と健康格差 (3) 保健医療制度 (4) 地域社会と保健医療		
2	4. 患者と医療関係者のコミュニケーションの課題と適切なあり方について説明できる	1) 患者－医療者関係とコミュニケーション	(1) 社会的相互作用とコミュニケーション (2) 患者－医療者関係とコミュニケーション		
2	5. 個人生活と地域社会との関係を理解する	1) コウノトリを育む但馬の風土と文化	(1) 但馬地域の風土、歴史、文化 (2) 地域社会、人びとの生活・移動 (3) コウノトリにみる自然との共生社会		
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院				
参考文献	授業内で適宜紹介				
評価方法	出席状況・受講態度、レポート、筆記試験				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	教育学	担当講師	河合 務
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>人間は生涯発達し続ける存在であり、学ぶことで、人間として生きて行く能力を獲得する。人としての心のありようを重視し、その健康を求めるときに看護は教育とつながるものとなり、教育の土台を形成することとなる。看護という土台の上に展開される教育は、健康な生活に向けた支援である。それは、対象と共に歩み、考え、対象の望み（目標）に向かって評価をしながら行なわれるものである。</p> <p>教育の本質、教育目的・方法を理解したうえで、いかなる対象にも健康生活に向けたアプローチができること、また看護専門職として必要となる生涯学習のための自己教育力についても学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 人間の成長と教育の意義を理解する	1) 教育とは 2) 人間の成長と教育の意義	(1) 教育とは (2) 教育の種類 (3) 教育と学習の関係 (1) 教育と物の形成との相違 (2) 人間の学習と成長発達の特徴 (3) 意図的な人間形成作用としての教育 (4) 養生と人間形成 (5) わが国の現代教育と課題	講義	
4	2. 教育目標と評価を理解する	1) 教育・目標と評価	(1) 評価と目標の関係 (2) 現在の目標・評価論 (3) パフォーマンス評価 (4) 評価の開発と実践	講義	
4	3. 教育の基本について理解する	1)人を教えるということ 2) 生涯学習	(1) コミュニケーションとしての教えること (2) 学ぶ・教えるということ (3) 省察 (4) 「教える - 学ぶ」の関係 (1) 生涯学習の必要性 (2) 成人はどこで学ぶのか (3) 成人はどのように学ぶのか	講義	
4	6. 専門職者として自己教育力の必要性が理解できる	3)自己教育力とその必要性	(1) 自己教育力とは何か (2) 職業人の生涯学習 ① 社会のコードと生涯学習 ② キャリア開発と自己教育力 ③ 社会人学習の機会・制度	講義	
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基本的看護技術 I 医学書院 波多野完治著 生涯教育論 波多野完治全集⑩ 小学館				
評価方法	レポート、筆記試験				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	人間関係論	担当講師	三木裕和 平田知之
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>人間は社会的動物ともいわれ、他者と関わることなしに生きていけない。なかでも看護は人と人との関わり合いの中で展開され、人間関係を築くことは看護の大前提である。人間関係形成の最も基本的な手段の一つがコミュニケーションだが、社会生活の変化にともない、コミュニケーションの形態も変化を遂げている。本科目では、他者を理解し、人間関係を作るための理論や技法を学び、より良い関係を作り、豊かな看護実践に活かせることをねらう。また、体験を通して、自己を振り返り、自己のコミュニケーションについて考える機会とする。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指 導 方 法	
4	1. 人間関係の中の自己と他者について理解する	1) 自己とは何か	(1) 自己概念の分類 (2) 自己評価維持モデル (3) 自己呈示	講義	
		2) 自己を取り巻く他者の理解	(1) 対人認知と印象形成 (2) 対人認知の個人差 (3) 対人認知の影響	講義	
2	2. 対人関係の成立について理解する	1) 対人関係の成立と対処	(1) 対人関係の成立の条件 (2) 対人関係の維持と崩壊 (3) 対人葛藤と対処	講義	
4	3. 態度と対人行動について理解する	1) 説得的コミュニケーション	(1) 効果的な説得的コミュニケーションのポイント	講義	
		2) 攻撃行動と援助行動	(1) 攻撃性の抑制 (2) 援助行動と援助成果	講義	
4	4. 人間関係をつくる理論について理解する	1) コミュニケーションの種類と特徴 2) コミュニケーションスキルと看護への応用	(1) コミュニケーションの機能 (2) コミュニケーションのチャネル (3) コーチング理論 (4) アサーション理論	講義 演習	
14	5. 体験を通して自己を知り、自己を表現することができる	1) 自己理解	(1) 人と身体を動かしてみる体験から他者との関係づくりを円滑にする (2) 創造的な問題解決をはかる (3) 自己の聴き方、伝え方、尋ね方を体験から振り返る	講義 演習	
2		2) 自己表現 3) コミュニケーションスキルの活用			
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基本的看護技術 I 医学書院				
評価方法	筆記試験、 レポート				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	外国語 「英語」	担当講師	福安 勝則
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>「人間と生活、社会を理解」する科目として本科目を設定した。</p> <p>英語表現の特徴やコミュニケーションのマナーを学ぶことにより、国際社会における人と人との繋がりや、互いの文化の違いを受け入れることの大切さを理解する。また、国際社会に対応できる語学力の基礎を身につけ、日常の医療場面に対応できることを目指す。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
8	英語の4技能を伸ばすことができる	1) 医療現場で用いている英語の基礎知識	(1) <i>Vital Signs</i> を用いて、病院の診療科、体の部位、病名などを英語でどのように表現するかを学ぶ。 <i>Grammar in Use</i> の Study Guide を用いて英文法の理解度を確認する。	講義	
10	看護の場で将来必要な英語の4技能を身に付ける	2) 医療現場で用いている英語の実践1	(2) <i>Vital Signs</i> を用いて、病院でのルーティーン、医療器具の名称、位置・場所の指示方法など、実践的な状況における英語の使用法を身につける。 <i>Grammar in Use</i> の Study Guide で判明した文法の弱点を、同書を用いて重点的に訓練する。		
10		3) 医療現場で用いている英語の実践2	(3) <i>Vital Signs</i> を用いて、問診や診察の際に用いる単語・表現などを身につける。 <i>Grammar in Use</i> の Study Guide で判明した文法の弱点を、同書を用いて重点的に訓練する。		
2	試験				
テキスト	Morooka, Vivian, and Terri Sugiura. <i>Vital Signs [Revised Edition]: Essential English for Healthcare Professionals</i> . Nan'un-Do, 2018.				
参考文献	Murphy, Raymond. <i>English Grammar in Use: Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English</i> . 4th ed., Cambridge UP, 2015. Food thought 思考の糧				
評価方法	筆記試験				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	家族論	担当講師	小田切 建太郎
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
科目設定のねらい 看護の対象は、対象者と家族であり、対象者と共に家族へのケアが必要である。その家族について基本となる知識と家族ケアに繋がる支援の考え方・方法を学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指 導 方 法	
4	1. 家族の基本的な概念が理解できる	1) 家族とは	(1) 隣接領域における家族の捉え方 (2) 看護学からみた家族の捉え方 (3) 家族の健康	講義	
		2) 家族の構造	(1) 家族構造とは (2) 血縁関係・親族関係を把握する方法 (3) 家族と家族外の間関係を把握する方法 (4) チーム医療での活用	講義	
	2. 家族の機能が理解できる	3) 家族機能	(1) 家族の育児機能 (2) 家族のセルフケア機能 (3) 社会における家族機能 (4) 変化する家族機能 (5) 家族機能を把握するためのモデルと方法	講義	
2	3. 現代家族における課題が理解できる	4) 現代の家族とその課題	(1) 現代家族の様相 (2) 現代家族の課題	講義	
8	4. 家族支援のアプローチ方法が理解できる	5) 家族を理解するための理論	(1) 家族発達理論 (2) 家族システム理論	講義	
		6) 家族の変化を把握するための理論	(1) 家族ストレス対処理論		
		7) 家族に変化をもたらすための介入	(1) 家族療法 (2) 家族を支える介入		
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院				
参考文献					
評価方法	筆記試験				